令和4年度第3回公民館運営審議会 議事概要

日 時：令和5年（2023年）3月22日（水）18時30分～20時00分

会 場：豊中市立庄内公民館 4階 講座室

出席者：青木 知男、上田 千恵子、大里 ルミ子、大濱 浩子、十河 秀敏、林 美輝、
吉田 収子、渡邊 浩

欠席者：秋山 京子、浦 耕太郎、野村 恭代、松山 鮎子

事務局：小野 雄慈(教育員会事務局長)、大澤 亮太(社会教育課長)、弘中 伸明(中央公民館長)、守屋 浩一(螢池公民館長)、山本 貢司(庄内公民館長)、田中 直之(千里公民館長)、前田 真吾(中央公民館副館長)、島津 智子(社会教育課副主幹)、田井 春奈(社会教育課主査)

傍聴者：なし

案件：

- (1) 令和4年度公民館事業の実施報告（R4年11月～R5年2月）について
- (2) 豊中市の社会教育のあり方の検討について
- (3) 令和5年度公民館事業計画等について
- (4) 公民館条例施行規則の改正について
- (5) その他

資料：

次第

- 資料1-① 令和4年度公民館講座集計表【11月～2月分】（公民館順）
資料1-② 令和4年度公民館講座集計表【11月～2月分】（事業区分順）
資料2-① 豊中市の社会教育のあり方の検討について（案）
資料2-② 社会教育のあり方の検討案（概要案）
資料3 令和5年度公民館事業計画
資料4 公民館条例施行規則の一部改正案について
資料5 令和5年度公民館講座実施にかかる予算
資料6 豊中市の社会教育のあり方について（ヒアリング資料）

議事概要

◇司会 ●委員 ■事務局

1. 開会
2. 案件

(1) 令和4年度公民館事業の実施報告（R4年11月～R5年2月）について

<事務局より資料1—①の説明>

●1月の広報とよなかに公民館・コラボ関連の事業が掲載されていたが、今回の資料に掲載されていない事業があるのはなぜか。また、公民館とコラボの予算の組み方は、どうなっているのか。あと、謝礼金について、例えばスマホの講習会の謝礼金はどこから出ているのか。シルバー人材センターのほうから出ているのか。まったく無償のボランティアというのは、今の時代にふさわしくないのではないかと思った。

■十分な説明ができていなかったが、公民館の光熱水費等の維持管理をする経費については、千里公民館以外は公民館費という目（もく）で計上している。千里公民館は千里文化センター費という公民館費とは別の目で予算を計上している。また、公民館事業ではなく、地域連携センター事業としてやっている事業については公民館運営審議会の案件としてはあげていない。今回、令和5年度公民館講座実施にかかる予算を資料として提出している。後ほど、令和5年度の事業計画とともに説明する。

「スマホ相談会とシルバー人材センター入会説明会」の謝礼金は、最終的に講師指導料をシルバー人材センターの方でもつということに決まった。共催相手が謝礼金を負担した際はそのことが分かる表現を工夫していきたい。

●各部局と連携して、地域の課題を解決していくのはいい取り組みだと思うが、庄内コラボもそういう方向に向かうのか。

■千里コラボがやっている事業の形になる予定である。庄内コラボセンターの目指す目的として、多世代交流、多文化共生ということが大きなテーマにかかげられている。単に行政がやるだけでなく、館内の9の施設、行政、市民の皆さん、市民公益活動団体、事業者、商店会や庄内にある企業の方々とともに地域課題の解決に目をむけてもらえるようなコラボ事業を今後展開していく。

●蛍池でされている「転入者集まれ」は、8組の定員で6組が参加したということだが、よそからきて、子どもの事を相談したい場合は、市役所に転入届を出したときに、こういう制度がありますよとか、そういう案内があるのか。転入者の総数はもっと多いと思う。

それから、「登録グループリーダー研修会」についてだが、私自身も千里中央のコラボでグループとして参加しているが、グループリーダーの研修に人権問題がテーマとなっていた。任意で集まっているグループ活動のリーダーとして、間接的にはそういう意識は必要だが、直接的にリーダーの研修としてはイメージが、違っているのではないかと思った。

■「転入者あつまれ」については、市民課窓口とは連携していない。他の事業と同様に広報誌に掲載し、対象は市外から転入して1年以内の子どもと保護者としている。その広報をみて参加した方が6組だった。広報の発信の仕方は、ホームページ、LINE、フェイスブックなど媒体を通じて、広く広報したいと思う。定員は場所の関係から定員を絞っているが、もっと参加したい人がいたら、回数を増やしたり、人数も増やしていきたい。

■グループリーダーの研修は、グループリーダーとしての資質を高めてもらうことを目的としており、その中で今回は人権課題についてしっかりと学んでもらうことを主眼に置いて実施した。皆さんをまとめる指導的な立場の人には、基本的人権の尊重にたったグループの運営をしてもらいたいと考えている。今後はグループの運営のあり方等の他のテーマについても検討していきたい。

●人権啓発の事業というのは、やらなくてはならない、そして、人を集めないと、やったという事にならない、ということで、手っ取り早く集めやすいのは、その施設を使っているグループのリーダーなので、動員されたのではないかという感じをうける。

■人権問題は、公民館が制度として設けている登録グループにも勉強してもらいたいと考えている。そのことによって、人権を守る意識の底上げをしていきたい、それが公民館の考えなのでご理解いただきたい。

●私は公民館の職員ではないが、リーダーになる人は、人権意識がとても大切だと思う。もちろん皆に人権意識は必要だが、まずリーダーがそのことを知っていないと、いろいろな団体をまとめていけない。リーダー自身が無意識のうちの偏見や、差別意識を持っているとまとめる活動はできないので、ぜひそういう人たちを集めて、半ば強制でもいいので、研修をすることはとても大切だと思う。私はそういう機会をまずはリーダー、そして一般の方にもどんどん広げていけば、とてもいい活動になるのではないかと思う。

◇講師の久保先生は人権のほうでも熱心に教育現場でやってこられて、コロナ禍の中で教育現場が疲弊していることについて、いろいろご意見をいただいております、大切な視点がもたらしたと思う。

先ほどの点で、転入してきた人への各種案内はどうなっているのか。

■転入者には転入セットとして、当時は豊中市の市街地図とか、子どもの相談できる場所などの分かるパンフレットや障害者や高齢者の方を対象にしたパンフレットの一覧、広報とよなかなどをセットして入れていた。

(2) 豊中市の社会教育のあり方の検討について

<事務局より資料2-①、資料2-②の説明>

●基本コンセプトのところで「地域づくりの根幹を支える人材育成と位置付けて施策をすすめる」とあるが、具体的にどのような人材育成の施策があるのか。これは、どの団体もすごく知りたい。

■社会教育課の役割として、人材育成の具体的な方策としてどういったことをするか検討する必要があると考えている。また行政側としては、今までは社会教育主事として市の教育委員会が任命した職員が、社会教育に関して指導等していたが、さらに「社会教育士制度」が令和2年度から始まっており、いろいろな場面・機会に社会教育士の取得をうながしていくなど、様々な地域活動の場で情報提供しながら、社会教育士の育成を通じてコーディネートできたらと考えている。

■公民館の立場からとなると、ひとつは公民分館との関わりを通じた人材育成となる。昨年度の公民分館協議会全体交流会のテーマの中にも人材育成をどうしていくかというテーマがあった。その中でカチッとした答えはなかなか出なかったが、探索し続けることで、少しでも前に進めるのではないかと考える。

もう一つは登録団体と協力しながら、先程のリーダー研修もあるし、公民館と公民館登録グループが協力しながら、いろいろなイベントをする中で、社会教育の意義を公民館からも引き続き発信していきたい。

●昨年分館長ばかりで、清明公民館に視察に行き、とても参考になった。人材育成というからには、大人になって、そこその年齢になってから、ボランティア活動しましょうといっても、すぐにできるものではない。福井の清明公民館では、小学校区ごとに公民館があり、うらやましいことにほとんどに館がある。公民分館がそれぞれ建物を持っているみたいなので、特にその清明公民館では隣にある小学校の子どもたちを放課後に来させて、その子どもたちに行事を任せたら、自分たちで本当に自主的に活動をはじめ、子どもたちが中学、高校、大学生になっていくとどんどんできることが大きくなってきて、最終的にはみんなとはいわないが、一部の子どもたちが、地域で農作物の肥料を自分たちで作って配って、そういった活動を広げている。本当に地域の担い手になっている。やはり時間がかかるかもしれないが、小学校6年生の子だったら、今18歳が成人なので、6年たったら大人になるので、そういう長い目で人材育成というのも、今後必要かなと思う。そんな豊中に建物を急に作るのは無理なので、そのアイデアとか、できるところは公民館や教育委員会が取り入れていけたらいいなと思う。

●今の話に共感した。私の育った地域ではそういった取り組みがあった。そして、私はその

中の一員として、リーダー会があり、そこで育てられ、ボランティアしてもらったので、大きくなったら返すという気持ちや、社会に育てられたなという気持ちをとっても持っている。

■公民分館の方の、分館活動に参加するモチベーションとして何人かの方から聞いているのは、小さい頃に公民分館のまつりや、文化祭、体育祭に親に連れられて行ったので、それらを原体験として、楽しい経験をさせてもらった。そうして、自分も成人してから、次の世代にそういう楽しい思いをさせてあげたいという思いで、分館活動をしていますという方がたくさんいる。地域によって程度の差はあるかもしれないが。

●資料2-①の8ページの最後の太字が全体のまとめであるなら、役割というのがその前にずっと書いてあり、その役割を私達一人一人、個人が、できることから行動する。だれ一人残らず、個人が、取り残されずに市民、これ個人ですね。個人が楽しく生きていける、これ、何か個人任せの市の施策なのかという感じにとれる。だから、最初は全体のみんで気づいて、行動することからだれ一人残さずというのなら分かるが、一人一人が気付くといえ、個人だけなので、その辺り、ちょっと個人寄り、個人任せのスローガンのような気がする。

■ご指摘のとおり、個人任せのニュアンスにとれるので、表現は再検討したい。

●ちなみに「私たち一人一人」の部分を「すべての人びと」がとすれば、企業をふくめて全部のところは気づいてとなり、「すべて」と大きく網をうったほうが、流れがいいかなと思った。

◇最初の方に社会教育、教育行政的な論調で書いているので、そこと合わせるためにも、ちょっと調整が必要と思う。社会教育は広いけれど、とりわけ教育行政機関のという形が強調されると整合性がさらにあるように感じた。

●基本コンセプトのキャッチフレーズ案1に「わくわく学びつながり育つまち豊中」と書いてあるが、これは二通りに読めると思う。「わくわく学びつながり育つまち、豊中」と読めるし「わくわく学びつながり、育つまち豊中」これは、「学びつながり」とは、学びの循環のことだと思う。これは、両方かけてわざと、このようなキャッチフレーズにしているのか、わざとぼやけたキャッチフレーズにしているのか。

■両方の意味があると思う。学んでつながることも大事だし、学んでからつながっていくこともある、どこで切るか、そこは両方捉えられると考える。ただ、わくわくと楽しんでやること、学んでつながっていく、そして、みんなが育っていくということを表現したく、この形で提案した。

◇私から一点、インクルーシブという言葉をしつこく入れるなら、もう少し社会的弱者やマイノリティーとされている方が、前面に出るような書き方で、その方に関する学びがあるということが入っているほうが、より豊中らしさ、豊中が大切にしていることが前面に出るかなと思う。イラストの中にも、車いすの方や、白杖の方がさりげなく入っているというところに、他市では見られない、本当にインクルーシブだなという事が分かると思う。

●ちょっと漠然としているかもしれないが、いろいろ学び育ちの支援とか、命の大切さを学ぶとか、大きく子どもが育つ、大人が育つ、そういう豊中になってほしいという事だと思うのだが、この情報がいっぱいある今の世の中で、私は今特に大切かなと思うのは、例えば、ワークショップであるとか、実地で体験できるようなこと、そういうことが大人も含めて、子どもの世界で体験できる機会が増えるとうれしいと思っている。ちょっと社会教育の中のどの辺になるか分からないが。

◇体験格差というか、家庭環境によっては、体験が不足して、本当にゲームばかりとかそういう方もいるので、その辺りしっかりと言葉に残して入れていくという必要性はあるかなと思う。

本日委員の皆さんからの意見をこの案に反映していただき、最終的な取りまとめができたからこの審議会で共有したいと思う。

(3) 令和5年度公民館事業計画等について

<事務局より資料3、資料5についての説明>

●「転入者あつまれ」だが、中央公民館と蛸池公民館では次世代育成事業となっているが、庄内公民館では地域魅力発信事業となっている。これは何か意図があるのか。それから千里公民館のNHK講座とは何をするのか。

■NHK講座はNHKと共催して行う、美術館の取組みの事前の学習のために、学芸員の方に来てもらい話をしてもらおう予定である。内容の詳細はこれから決めていく。

■同じ事業については、4公民館で調整しカテゴリーを統一することとする。

●今年の事業計画を読んで、最近自殺する子どもが多くなって、命の大切さをどこかに入れていただきたいと思った。

◇他にもいじめ問題とか学校と連携して、取り上げていただいたらありがたいと思う。

■平和月間事業で基本的には4館何らかの取組みをする。その中でつきつめれば、平和というのは人の命を大切にするということ、人権啓発についても同様だが、4館の中で具体的

な講座を練る中で、今のご意見をふまえながら、企画を進めたい。

●中央公民館では「スマホ講座」が人権啓発に入っており、蛍池・千里は地域魅力発信となっているので、合わせた方がいい。

高齢者の方のスマホの講座は庄内が無いので、庄内公民館でも実施してもらいたいと思った。

■公民館事業ではないが、地域連携センター事業の方で「スマホ講座」を実施している。高齢者には、様々なことを学びたい方が多く、パソコン教室などを含めて進めていきたい。

■事業区分の統一については、スマホ講座は中央公民館ではデジタルデバイスの高齢者の権利という視点から人権としている。今後は足並みをそろえていく。

●先ほどのご意見で、命の大切さを教えるということ、私も大変いいことだと思う。子どもたちの自殺は心が痛い。言葉で教えることは大事かと思うが、例えば、動物や植物を育てるところから、命の大切さを学ぶのも大事な事だと思う。時間がかかるかもしれないが、命の大切さを大人も含めて、学ぶ機会があればいいと思う。

◇動物などから、生き物が感じる痛み等を分かってもらえたらいいと思う。ちなみに Wifi については、今はどこの館も整備されているのか。

■4館ともに、1年前にwifi環境を整備した。たまに電波が弱い場合があるが、講座用のモバイルルーターもある。基本的には。コラボの方は標準装備となっている。

◇地域の子どもたちから、通信のデータ量が足りないと聞くので、コンビニ等に行くより、公民館に来てつないでもらいたい。

●色々な事業の広報をされているときに、公民館や図書館に来れば素敵なパンフレットが置いてあるが、結局行かなければ分からない。行かない人たちにどうやって伝えているのか。また、インスタや発信する専属の人たちはいるのか。広報が弱いように感じる。

■広報については、広報とよなかに4公民館の事業を載せるページがあるが、原稿を削られる場合もあり、そこに載せきれない情報もある。また、市の方針として、公民館講座のような記事はホームページに誘導するための入り口というところにシフトしているので、それぞれの2次元バーコードからそれぞれの詳しい情報に飛ぶというかたちで、広報をより充実させていきたいのと、お知らせ本棚や、今年から教育委員会全体の情報発信のツールとしてツ

ツイッターを始め、公民館は教育委員会の中で発信している。

■ツイッターは、ハッシュタグ豊中市教育委員会、もしくはそれぞれの催し例えば「にほんごよみかき」など分かりやすいキーワードで検索できるようにしている。

■それに加えて、公式LINEが豊中市にあり、そこでは、セグメント配信で、利用者が欲しい情報を届けている。

◇広報も若い世代を取り込んでいくにはツイッターやインスタグラムもキーワードを貼って、公民館の活性化のために可能な範囲で検討していただけたらと思う。

●ショコラの館内を先程ご案内いただいて、ここに公民館とコラボが青と赤でパンフレットに色分けされて書いてあるが、どういったことで、二つに分かれているのか。実際としては、公民館としての機能とコラボとしての機能があると思うが。

■庄内コラボセンターの中に一施設として、公民館があるということになります。

●コラボというのは、建物の事なのか。

■全体の建物の名称が庄内コラボセンターとなる。その一つとして、公民館や市役所の出張所など9の施設が入っている。我々の貸室業務として行なっているのが、パンフレットに青色で表示している公民館となる。社会教育施設はグループ利用が前提となっている。また、使い方も何か講座をやったり、登録グループが活動したりということが基本となっている。

これに対して、赤い部屋がコラボセンターの貸室となる。一番大きな違いは個人利用ができて、公民館よりは緩やかな形で利用できる。営利行為や葬儀はできないが、それ以外は企業の研修や親睦会やお別れ会、地域の団体の総会や会議などさまざまな用途で使える。音楽練習室は個人で楽器の練習も可能となる。

●今更だが、何故こんなややこしいことをしたのか。もっと市民がみんな分かるようにシンプルに作ればいいのかと思う。

■公民館というのは、社会教育法に基づいて運営しているので、政治・宗教活動等ができない。それなら、社会教育法のしほりをうけない、柔軟な運用ができる部分も必要という理由でコラボの貸室もある。全体の建物が庄内コラボで、その中にまた、庄内コラボの部屋があるというのは確かに分かりにくいことはある。

●そうしましたら、公民館運営審議会はこの庄内で言えば、青の部分(公民館)だけを審議しているのか。

■基本的には公民館運営審議会は公民館に関することとっているのであっている。地域連携センター事業が審議会報告に含まれていないのは課題と考えている。

●土地勘のないまま電車でショコラに来た。ここにある地図と同じものがあつたが、自分がどちらから来たのか分かりにくく、北がどちらかも分かりにくい。途中から標識がでてきたので、何とか来られたが、この地図では非常に迷った。分かりやすくしてほしい。

◇分かりやすいアクセスは重要である。コラボセンターと公民館の違いだが、社会教育法ができた歴史的背景と、それでは対応できないので、こういったコラボなどいろいろなものができてきている。社会教育のあり方検討にこういった視点を加えないといけないのではと思った。

●新規事業で、中央公民館の子どもスマブラ交流会がすごく人気があるのに、来年は消えている。人気のある講座は何年か連続でやれば、きっとそこには、毎年参加することも出てくると思う。公民館でも子どもたちを参加させて、地域リーダーを育てるとか、ICリーダーに育てていくとか、何かやはりそういう観点で事業を計画したらどうかと思う。

■「スマブラ交流会」はママの働き方応援隊という団体とやったが、事業計画に「子育て世代の健康づくりフェア(仮)」とあるが、これが同じ団体との共催事業なので、ご意見をふまえ、また、2回目やろうよという話になれば企画したい。

◇各委員の意見をふまえて、それぞれの公民館事業に取り組んでいただきたい。

(4) 公民館条例施行規則の改正について

<資料4 公民館条例施行規則の一部改正案について事務局より説明>

●令和5年度は、このままでいく。それ以後は3分館を1館にするということか。

■令和5年度に統合の協議が整わなかった場合でも、附則によって令和5年4月1日より前に、3つの公民分館は設置されているので、統合しないと規則に違反するということはない。

●ということは、この附則がついているかぎり、永遠に今のままが続くという事もあるとい

うことになる。なにかうまくいくようなきざしはあるのか。

■3館の分館長の協議に山本館長と入っているが、統合に向かってすすんでおり来年の4月1日にはまとまると思っている。

●分館とは建物を言っているのではなく、そういう活動をする組織がある限り、今のまま、組織があるところは残しましょう、組織がなくなったら統合しましょうということか。

■今後、南校が整備される予定となっている。今の考えでは、できるだけ分館の活動がしやすいように地元の意向を尊重しようということになっているので、一つの選択肢として、学校は一つになるが、活動は別のほうが良いという事もある。それを無理に義務教育学校で一つになったのだから、一つにならないと分館として認めませんよということとはできない。そういう点からこういった含みをもたせた表現の附則変更になった。

●実質的に建物は無いが校区ごとに活動し、小学校を使わせてもらって、体育祭や文化祭をしている。それが1つの学校になり、3つ分館が存在したら、実際的には一つの学校で3つの分館が時期をずらして、体育祭や文化祭を実施するということになるので、本当は、理想はすぐには無理でも一つにまとまるべきと思う。PTAもひとつになるのだから、物理的に3つがそれぞれの活動というのは難しい。ある程度、数年後には一つにと、方向性を示した方がよいのではないか。

■令和6年の4月1日から統合を前提に協議を進めますと当事者が言っているのでそれに向けて進む予定と考えている。

(5) その他

<事務局より、令和4年度の公民館運営審議会は今回で最後となること、次回は令和5年7月に開催予定であること、等の情報提供あり。>

3 閉会

◇以上で、今回の審議会を終了します。皆様のご出席ありがとうございました。